

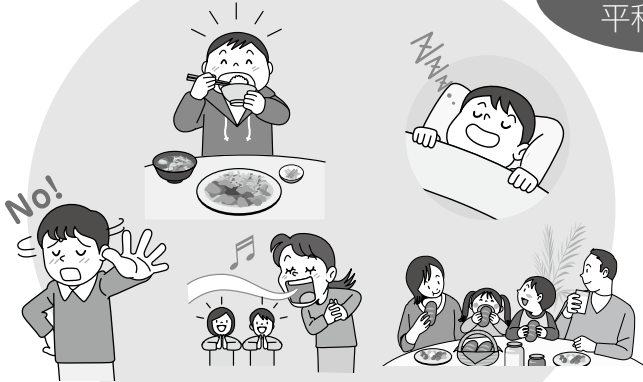


平和をつくる方法とは？

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.164・165
今号の特集から

平和なとき



平和は、毎日のくらしの中にあります。

平和は、
人が人間らしく
生きるための土台です！

あなたにとって
平和とは？

平和でないとき



戦争は、平和の土台を壊し、
すべてを奪う最悪の暴力です



SDGs 目標16

平和と公正をすべての人に
争いのない平和な社会を
実現するために掲げられた目標です

暴力的な争いを避け、平和的な解決のために必要なこと

対話
話し合い

理解
ゆずり合い

思いやり
助け合い

特集のねらい

平和のためにできることは？

世界では今もどこかで紛争や戦争などの争いごとが起きています。今春、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻がなされ、世界中に大きな衝撃を与えました。

紛争の影響を受けている国や地域で暮らす子どもたちは約2億4,600万人とされ、たくさんの方が命を奪われたり、家族を失ったり、住む場所を追われたりするなどの辛く悲しい思いをしています。

SDGsの目標16は、「すべての人が受け入れられる平和な社会にしよう、それぞれの国は弱い立場の人も守られるような法律や制度を作ろう」と呼びかけています。

本特集では、誰もが安心・安全で暮らせる社会を築くために、多面的な視野をもって、平和とは何か、平和のために自分たちができることは何かを、あらためて考えてみました。

自由と夢のため過去を語り継ぐ

長野市出身のシンガーソングライター 清水まなぶさんは、音楽活動と並行し、戦争と平和をテーマに歌と講演の活動「回想プロジェクト」を続けています。

きっかけは祖父が残した戦争体験記でした。2015年からは県内全77市町村を巡り、戦争体験者から聞き取りを始めました。そのエピソードを講演会で紹介したり、記録集や絵本にして出版したりするなど、後世に語り継いでいます。

講演会で清水さんは、活動を通して学んだ3つのこと、「感謝の心」「あきらめない気持ち」「平和の尊さ」を子どもたちに伝えています。

「自由に自分の意見を言うことができず、夢が見られない時代があった過去を知ることで、同じような境遇に直面したとき、自分たちはどうするのか、未来の人生を考え

る上での選択肢にしてほしい」と話します。

平和は、日常を大切にすること

平和学の父と言われるヨハン・ガルトウングによると平和は、暴力や戦争がない状態を指す「消極的平和」と、共感をもとにした協調と調和がある「積極的平和」の2つに分けています。

そして平和の対義語を「暴力」として、戦争や虐待などの「直接的暴力」、貧困や飢餓、環境問題、差別などの「構造的暴力」、他者への不寛容や偏見、無関心などの「文化的暴力」の3つに分けています。

戦争はふだんのくらしの「日常」を破壊するものですが、戦争のない世界だけが平和ではなく、楽しくて満足できる「日常」を大切にし、社会の中での一人ひとりの生きづらさの課題を解決していくことも平和への一歩につながります。

「回想プロジェクト」 子どもたちの瞳が輝く 歌と語りの講演会
<http://artemisplaces.wix.com/kaisou>

シンガーソングライター
清水まなぶさん（長野市出身）
 200名以上の戦争体験談から
 平和や人権、夢や希望を伝える



清水まなぶさんは、2007年より戦争体験者の声を歌や本にして平和の大切さやありがたさ、先人たちの偉大さを伝える「回想プロジェクト」の活動を続けています。長野県内をはじめ、全国各地の小中学校や高校、平和に関するイベントなどで講演しています。

『こはるさんのこもりうた』
 発行：回想プロジェクト

『追いかけた77の記憶
 信州全市町村
 戦争体験聞き取りの旅』
 発行：信濃毎日新聞社

平和な未来のために
 語り継ぐことを使命として

「回想プロジェクト」は、満州に渡り、捕虜になって苦労した祖父の戦争体験を知ったことがきっかけでした。戦争体験者の声を生で聞けるのは今しかない、平和な未来のために過去から学ぶことは何だろう？ という思いを胸に、聞き取りの旅を始めました。



祖父の代から受け継がれたこの命と平和、豊かな今の暮らしは、数えきれない失われた命や悲しみ、涙の上に築かれたものです。これまでに話を聞かせてくださった皆さんそれぞれに体験は違いますが、口をそろえて言う言葉は「もう二度と戦争をしてはならん」。それは私たちに授けられた使命だと思います。

活動の通して、子どもたちには過去と比較しながら想像を働かせれば、今の自分たちの悩みの改善の糸口になり、自由に夢を描き実現させていける時代だということや、志を胸にあきらめずに続けることの大切さに気づいてほしいと願っています。

戦争や過去を知ることで、自身を見つめ直し、そこから大切なモノは何かを考え、自分なりの答えを出してくれたら嬉しいです。

講演会を聞いて… 子どもたちの感想

- 講演会を聞いて、平和のありがたさをかみしめることができました。今は当たり前のように生活しているけれど、昔はそれが夢のようなことだったなんて思いませんでした。
- 受験生の私の心には一つ一つの言葉が染みわたりました。どんな困難があろうとあきらめないで、熱くなることが大事なんだと学びました。
- 戦争の様子を歌詞にして歌ってもらい。戦争の悲劇がよく伝わった。平和をつくるためにどうしたらよいか？と考えさせられる良い機会になった。

学校PTA講演会、人権平和学習に！

お問い合わせ：回想プロジェクト 長野オフィス
 kaisou2011@gmail.com Tel: 090-3343-7785
<https://www.facebook.com/kaisou1945>

● 平和な世界をつくる方法 ●

私たちにできることは？
 平和をつくる方法を
 考えてみよう！



知る

世界で今、どんなことが起きているのか、いろんな情報から知る

歴史を学び、過去の戦争が今も残している問題を調べてみる

平和に関連する本を読んだり、映像を見たり、体験者の話を聞いたりする

考える

なぜその戦争が起こったのか、なぜ止められなかったのかを調べ、考える

戦争で傷ついた人、難民になった人のために何ができるかを考える

相手の大切なものや気持ちを聞いて想像してみる

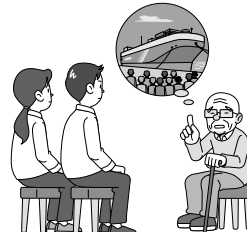
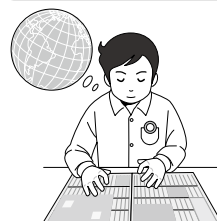
行動する

難民の人たちを募金や物資集めなどで支援する

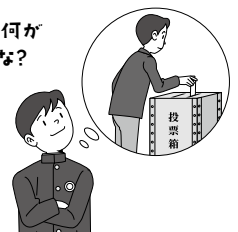
SNSなどで平和を呼びかける

民族や人種に関係なく、他の国の人と仲良くする

大人になったら選挙に行こうと思う



まだまだ何かできるかな？



知っておきたい、訪ねてみたい 長野県内に見る戦争の記憶

満蒙開拓平和記念館

〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村711-10
Tel.0265-43-5580
<http://www.manmoukinenkan.com>

満蒙開拓平和記念館は、戦時に国策で旧満州に多くの日本人が渡り入植した「満蒙開拓」の資料を収集展示し、後世に伝える唯一の博物館として、当時全国最多の開拓民を送り出した長野県の南部に2013年に開館しました。

当時の映像・写真・手紙・資料や住居の模型で、入植から逃避行・集団自決・収容所の生活、そして中国残留孤児までの負の歴史を見ることができます。満蒙開拓に実際に関わった「語り部」の方々の手記とビデオメッセージ、また、来館者の感想も胸に迫ります。

戦時中の大陸からの強制連行などの企画展や、講演も行われています。



満蒙開拓は、満州事変から第二次世界大戦終戦までに、旧満州（中国東北部）の現地中国人から取り上げた土地に、30万人とも言われる日本人が入植した当時の国策です。中でも長野県は、県や教育会からの圧力や養蚕・製糸業の不況により、全国最多の3万3千人が移住しました。

厳しい自然の中での開墾や内部紛争などの末、敗戦とソ連軍の参戦によるシベリア抑留、想像を絶する徒歩と船による逃避行により、帰国できたのは開拓団の1/3とされています。一部は中国残留孤児となり、引揚帰国できた方々も、荒れ地に居住させられ「引揚者村」となりました。

いわさきちひろの作品 提供：安曇野ちひろ美術館



「母の日」
1972年



「戦火のなかの少女」
『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1972年



「チューリップとあかちゃん」
1972年

松代象山地下壕（大本営跡）

〒381-1232 長野市松代町西条479-11
Tel.026-224-8316
<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/kanko-nagano/22100.html>

第二次世界大戦の末期、軍部が本土決戦の最後の拠点として、極秘のうちに、大本営、政府各省等をこの地に移すという計画のもとに、昭和19年11月11日から翌20年8月15日の終戦の日まで、およそ9箇月の間に建設されたもので、突貫工事をもって、全工程の約8割が完成しました。

この建設には、当時の金額で1億円とも2億円ともいわれる巨費が投じられ、また、労働者として多くの朝鮮や日本人が強制的に動員されたと言われていています(様々な意見があり)。

松代象山地下壕は、平和な世界を後世に語り継ぐ上での貴重な戦争遺跡として、多くの方々にこの存在を知っていただくため、平成元年から一部を公開しています。

(パンフレットより)

安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
Tel.0261-62-0772
<https://chihiro.jp/azumino/>

絵本画家いわさきちひろは、青春時代に戦争を体験し、子どもたちの夢や希望、生命をも奪う、戦争の悲惨な現実を目の当たりにします。そして、戦争では、一番弱いものが犠牲になると痛感しました。

戦後、自身の戦争体験から、「二度と戦争を起こしてはならない」と、平和な世界の実現を願ったちひろ。「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」ということばを残し、その思いは、ちひろのすべての作品の根底にあります。

安曇野ちひろ美術館は、1997年、ちひろ美術館・東京の開館20周年を記念して開館しました。

安曇野は、信州出身の両親を持つちひろにとって、幼いころから親しんだ心のふるさとでした。

なかでも、美術館のある松川村は、戦後、両親が開拓農民として暮らした土地で、ちひろは折りにふれてこの地を訪れ、多くのスケッチも残しています。

平和への誓い「こども平和のつどい」より

被爆50周年(平成7年)の広島 平和記念式典では、広島市長の平和宣言に続いて、初めてこども代表が「平和への誓い」を述べました。これは、「こども平和のつどい」で世界のこどもたちが話し合った結果を平和への決意として述べたもので、翌年以降もこの成果を引き継ぐ「こどもピースサミット」を開催し、「平和への誓い」を発信しています

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/education/16190.html>

平和への誓い

あなたにとって、大切な人は誰ですか。
 家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。
 大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。
 そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。
 道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。
 「水をくれ。」「水をください。」という声。
 大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。
 今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。
 戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。
 本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。
 本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。
 しかし、未来は創ることができます。
 悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。
 被爆者の声を聞き、思いを想像すること。
 その思いをたくさんの人に伝えること。
 そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。
 世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

令和4年(2022年)8月6日
 こども代表
 広島市立幟町小学校6年 バルバラ・アレックス
 広島市立中島小学校6年 山崎 鈴

「平和 へいわ」言葉のなりたち

peace の語源はラテン語の pax (パークス) にあります。pax (パークス) には、「平和・平静・敵意欠如・調和」といった意味があり、それぞれの国で少しずつ形を変え、イタリア語では pace、スペイン語では paz、フランス語では paix、そして英語で peace となったのだそうです。

日本語の「平和」は、明治時代、英語の「peace」の訳語として造られた和製漢語です。

見つけてみよう！

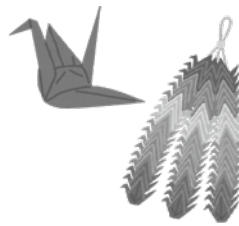
平和のシンボルマーク

過去の歴史や出来事が背景となり、平和のシンボルが生まれてきています。平和を考えるきっかけとして、その一部を紹介します。



鳩とオリーブの枝

ハトが平和の使者とされるのは、旧約聖書『創世記』にある「ノアの方舟」のエピソードにちなむとされています。神の怒りを買って洪水で沈められた世界が、再び平和の世界になったことをハトがオリーブの枝をくわえて知らせたといわれます。



千羽鶴

平和の象徴として広まったきっかけは、広島市への原子爆弾投下により被爆した、佐々木禎子が生前に病気の回復を祈って折鶴を折り続けたというエピソードによるものです。



ひなぎく(デージー)

デージーの花言葉には、「純白」や「平和」、「希望」など、平和を意味する花として花言葉が付けられています。



ピースサイン

写真を取るときに出すピースサインの「ピース」とは「平和」のこと。Vサインとも呼ばれますが、このVは「勝利」を意味する「Victory」から来たものなんですよ。



平和の旗

(伊: la bandiera della pace)
 戦争に反対し、平和を求める意思を表示する旗。虹色の7本のストライプで、中央に「PACE」(伊: 平和)の文字が入っているのが一般的です。

協力：辰野町立 辰野南小学校、安曇野市立 明南小学校、立科町立 立科中学校、学校法人文化長野学園 文化学園長野中学校
 参考図書：『SDGsで見る現代の戦争 知って 調べて 考える』(学研プラス)、『未来をつくる! あたらしい平和学習① 平和学習をはじめよう』(岩崎書店)、『地球村の子どもたち 途上国から見た SDGs (3) 平和』(少年写真新聞社)、『世界を平和にするためのささやかな提案』(河出書房新社)、『いくらかな? 社会がみえるねだんのはなし6 戦争と安全のねだん』(大月書店) ほか

令和4年10月発行 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター
 〒380-0936 長野県長野市中御所岡田98-1
 TEL.026-226-1882 FAX.026-227-0137
 E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>

